

松本宜響書展

花蔵院梵字曼荼羅と相縁の書

会期 2017年 11月23日(木・祝)〜27日(月) 午前10時〜午後5時
 会場 花蔵院 栃木県宇都宮市元今泉2-3-6 電話 028-634-8571

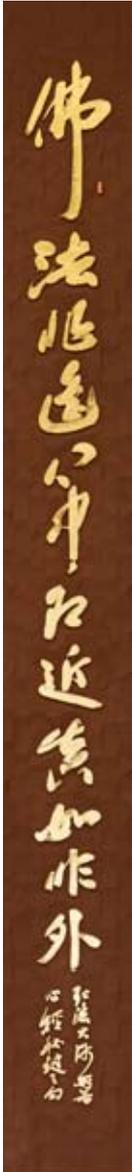


松本宜響

まつもと・ぎきょう
 昭和二十一(一九四六)年、栃木県生まれ。本名、弘元。大正大学仏教学部真言学科卒業(卒業論文「弘法大師の書論について」性霊集を中心にして)。中村素堂に師事。栃木県立高校の書道科教諭を経て、平成三(一九九二)年より、花蔵院住職。平成六(一九九四)年、個展開催(栃木県総合文化センター)。「花蔵院テレホン法話」出版。現在、毎日書道展審査委員、栃木県書道連盟会長、貞香会参与



弘法大師 般若心経秘鍵

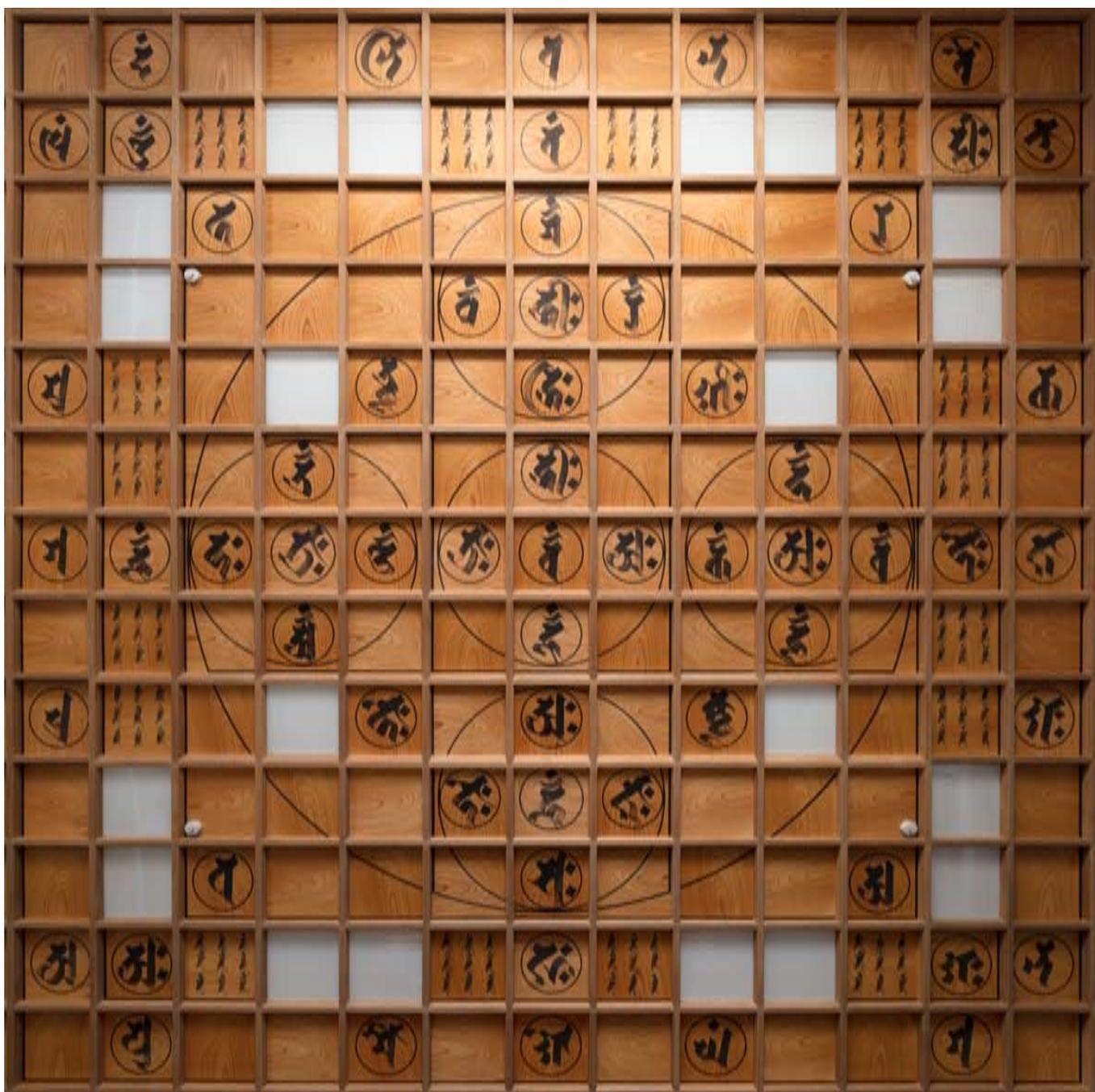


栃木県書道連盟会長、貞香会参与の松本宜響氏が、住職を務める栃木県宇都宮市の花蔵院にて個展を開催する。花蔵院は真言宗智山派に属し、御本尊大日如来を中心として、諸尊諸菩薩をまつる曼荼羅の寺。本展は「花蔵院梵字曼荼羅」「宜響墨戯」「翰墨相縁」の三部立てにより構成。平成二十七(二〇一五)年に改修工事が落慶した本堂と庫裏客殿が、超大作「梵字曼荼羅」のほか、書業五十年を集大成する氏の作品で荘厳される。



本堂内陣の天井に壮大な「梵字曼荼羅」が広がる。本年4月8日の書丹法要式にて揮毫。墨は、何十人もの人たちが心を込めて磨墨したもの

梵字曼荼羅（金剛界成身會）



花藏院梵字曼荼羅

梵字書法に感動して半世紀、
心を込めて書き上げた超大作



十三仏種子



梵字曼荼羅（胎藏中台八葉院）

宜響墨戲

書業五十年、
真摯に墨と戯れた作品が
庫裏客殿を飾る

壺



中



金泥小品集



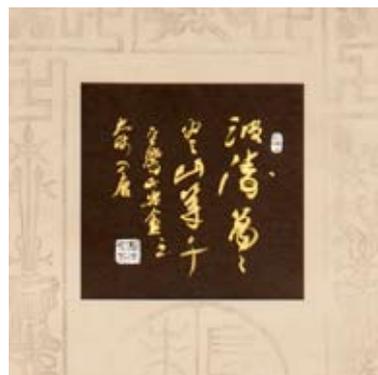
梵字般若心經



師・中村素堂を偲ぶ「素堂の間」。北襖「壺」「中」は、「梵字曼荼羅」を書丹したときの墨を使用し、毛筆の連筆で揮毫。朴書（刷毛書）の技法で新たな世界を切り拓く



波濤萬萬 (大師入唐)

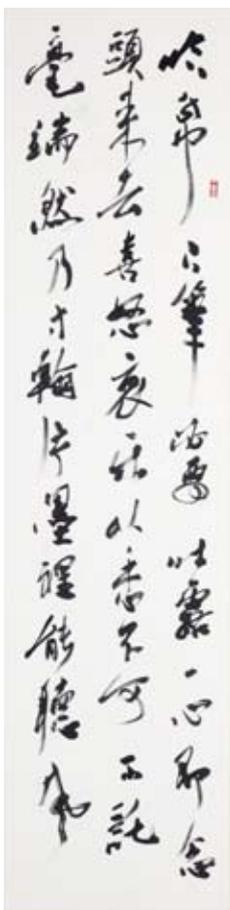
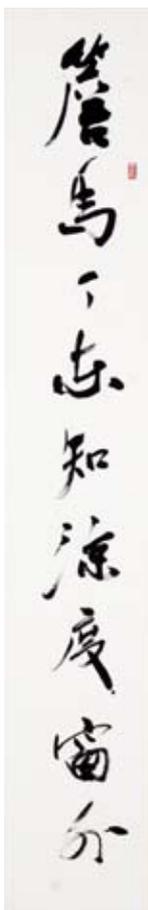


花開酒國春



中村素堂先生 貞香山房詩鈔

學書十則之一・楹聯鈔之一



翰墨相縁

翰墨の道を通して交流が続く
中国人書家の作品も出品

八言二句 余正



花蔵院 蘇士澍



西冷印社篆刻創作研究室主任・余正氏、中国書法家協会主席・蘇士澍氏など、長年にわたり交流を続ける中国人書家の作品多数も展示

